

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復している」

項目	前回（平成31年4月判断）	今回（令和元年7月判断）	前回比較
総括判断	生産の一部に弱さもみられるが、 緩やかに回復している	緩やかに回復している	→

（注）令和元年7月判断は、前回平成31年4月判断以降、令和元年7月に入ってからからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、天候要因等の影響で百貨店・スーパー販売が伸び悩んでいるものの、コンビニエンスストア販売が順調なことなどから、回復しつつある。生産活動は、海外需要等を背景に回復している。雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移するなど改善しているなかで、人手不足感が高まっている。

## 【各項目の判断】

項目	前回（平成31年4月判断）	今回（令和元年7月判断）	前回比較
個人消費	回復しつつある	回復しつつある	→
生産活動	回復のテンポが緩やかになっている	回復している	↗
雇用情勢	改善しているなかで、人手不足感が高まっている	改善しているなかで、人手不足感が高まっている	→
設備投資	平成30年度は増加見込み	令和元年度は増加見込み	→
企業収益	平成30年度は減益見込み	令和元年度は増益見込み	↗
住宅建設	回復しつつある	弱含んでいる	↘

## 【先行き】

先行きについては、雇用情勢の改善が続くなかで、各種政策効果を背景に、景気が回復していくことが期待される。ただし、中国経済の先行きなど海外経済の不確実性や、人手不足感の高まり等が回復の動きに制約を及ぼす懸念など、管内経済を下押しするリスクに留意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、気温の影響等から夏物衣料の動きが低調であったものの、時計等の高額品や化粧品などの動きから底堅さは保っている。コンビニエンスストア販売は、店内調理商品やおにぎり・サンドイッチなどを中心に順調となっている。乗用車の新車販売は、新型車投入効果により好調に推移している。宿泊者数（延べ）は、外国人を含め前年を下回っている。

#### (主なヒアリング結果)

- 気温が上がらず初夏物衣料の動きは鈍かったが、時計や貴金属など的高額品は引き続き堅調。(百貨店・スーパー)
- 10連休となったGWにおいては、人が集まる施設や近隣の店舗でセール効果もあり、おにぎりを中心に好調。(コンビニエンスストア)
- 新型SUVの受注が伸びてきている。(自動車販売店)
- GW期間中に近畿や中部地方など、遠方からの国内宿泊客が大幅に増加したが、それに伴い日本旅行価格が高騰したため、インバウンドが減少している。(公的機関)
- 天候不順の影響からガーデニングなどのDIY関連が伸び悩んだ。(ホームセンター)
- テレビは大型化・高機能化により単価が上昇し、10年前のエコポイント時の買換え需要により売上が伸びている。(家電)

### ■ 生産活動 「回復している」

食料品等は、畜産製品が堅調である。電子部品・デバイスは、スマートフォン向けや車載向け部品が好調である。化学・石油製品は、自動車向けの製品等が好調である。汎用・生産用・業務用機械は、自動車関連製造装置が堅調である。輸送機械は、自動車及び同部品が堅調である。

- 鶏肉の需要は、消費者の健康志向の高まりにより、堅調な状況が続いている。(食料品等)
- 車載向け部品が好調なため、今後、増産のための設備投資を予定している。(電子部品・デバイス)
- 国内外の高い需要に支えられ、工場はフル稼働の状況が継続している。(化学・石油製品)
- 米中貿易摩擦等の影響により先行きに不透明感はあるが、自動車関連製造装置等が好調であることからフル操業を継続している。(汎用・生産用・業務用機械)
- 予防安全機能搭載の主力商品等の生産が好調であり、今年度は前年度を上回る生産を計画している。(輸送機械)

### ■ 雇用情勢 「改善しているなかで、人手不足感が高まっている」

有効求人倍率は高水準で推移している。新規求人数は引き続き高水準で推移しており、業種別にみると、医療・福祉、卸売業・小売業、建設業等で多くの求人が発生している。

- 若い有資格者を確保できれば業務拡大の余地があるため求人募集を出すものの、応募者は皆無の状況となっている。(建設業)
- 専門的な技術や知識を要する部門は人手確保さえ出来れば業績を伸ばせる余地があるものの、人手不足により売上機会を逸している。(小売業)
- 市場性のある魅力的な物件はあるものの、既存店でさえ人材確保に苦慮している中、新規出店の制約となっている。(宿泊業・飲食サービス業)
- 人材の確保に苦慮していることから7月に技能実習生を受入予定で、年度内に更に追加を予定している。(金属製品)

■ **設備投資 「令和元年度は増加見込み」**（全産業）「法人企業景気予測調査」平成31年4～6月期

- 製造業では、食料品製造業などで減少見込みとなっているものの、情報通信機械器具製造業などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、運輸業・郵便業などで減少見込みとなっているものの、金融業・保険業などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。

- 増産に向けた積極的な投資を実施予定。（情報通信機械器具製造業）
- システム投資や店舗建替えを実施予定。（金融業・保険業）

■ **企業収益 「令和元年度は増益見込み」**（全産業）「法人企業景気予測調査」平成31年4～6月期

- 製造業では、生産用機械器具製造業などで減益見込みとなっているものの、情報通信機械器具製造業などで増益見込みとなっており、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、農林水産業などで増益見込みとなっているものの、運輸業・郵便業などで減益見込みとなっており、全体では減益見込みとなっている。

■ **企業の景況感 「『下降』超幅が縮小」**（全産業）「法人企業景気予測調査」平成31年4～6月期

- 企業の景況判断BSIは、前期(平成31年1～3月期)に比べ、全産業では製造業を中心に「下降」超幅が縮小している。なお、先行きは、令和元年7～9月期は「上昇」超に転じ、令和元年10～12月期は「下降」超に転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設 「弱含んでいる」**

- 新設住宅着工戸数をみると、前年を下回っている。

■ **公共事業**

- 公共工事前払金保証統計の請負金額（平成31年4～6月累計）でみると、前年度を上回っている。

■ **農業**

- 野菜について、農協共販量は3月は前年を下回り、4月は前年を上回り、5月は前年を下回っている。販売単価は3月、4月ともに前年を上回り、5月は前年を下回っている。
- 畜産物について、牛のと畜頭数は3月は前年を下回り、4月は前年を上回り、5月は前年を下回っている。枝肉卸売価格は3月は前年を上回り、4月、5月ともに前年を下回っている。豚のと畜頭数は3月は前年を下回り、4月、5月ともに前年を上回っている。枝肉卸売価格は3月、4月ともに前年を上回り、5月は前年を下回っている。

■ **倒産**

- 企業倒産（平成31年4～6月期）は、件数は前年を上回り、負債金額は前年を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回（平成31年4月判断）	今回（令和元年7月判断）	前回比較	総括判断の要点
熊本県	生産の一部に弱さもみられるが、緩やかに回復している	緩やかに回復している		個人消費は、天候要因等の影響で百貨店・スーパー販売が伸び悩んでいるものの、コンビニエンスストア販売が順調なことなどから、緩やかに回復している。生産活動は、海外需要等を背景に緩やかに拡大しつつある。雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移するなど改善しているなかで、人手不足感が高まっている。
大分県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は、乗用車の新車販売台数が前年を上回っているほか、宿泊・観光面が好調に推移するなど、持ち直しの動きが続いている。また、生産活動は、国内外の堅調な需要などを背景に、緩やかに持ち直しているほか、雇用情勢は、改善が続いているなかで、人手不足感が高まっている。
宮崎県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は、コンビニエンスストア販売額が前年を上回っているほか、新車登録・届出台数も前年を上回るなど、全体として持ち直している。また、生産活動は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつあるほか、雇用情勢は改善しているなかで、人手不足感が強い状況が続いている。
鹿児島県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、観光において一部に前年からの反動減が見られたものの、新車販売や旅行取扱高などが前年を上回ったことから、持ち直している。生産活動は、海外需要の減少等の影響により、回復に向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、改善が続いているなかで、人手不足感が広がっている。